

令和5年度第1回恵那市総合教育会議会議録

日 時 令和5年9月26日(火) 午後1時30分～

場 所 恵那市役所 西庁舎 4A会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

「恵那南地区統合中学校について」

(1) 準備委員会の進捗について

(2) 恵那南地区統合中学校基本構想(案)について

出席構成員：恵那市長

(6名) 教育長

教育委員

小坂 喬峰

岡田 庄二

西尾 修欣

後藤 伸子

樋田 千史

村松 訓子

事務局： 副教育長

教育委員会事務局長

教育委員会事務局次長兼

教育総務課長

教育委員会事務局次長兼

学校教育課長

学校教育課主幹

教育総務課係長

教育総務課担当係長

工藤 博也

鈴木 幸宣

佐々木 和美

丸山 頼彦

安藤 善和

市川 太一

原 久晃

開会(午後1時30分)

事務局次長兼教育総務課長

それでは、定刻になりましたので、これより令和5年度第1回総合教育会議を始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日、私、教育総務課長の佐々木が司会をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。では、着座にて失礼いたします。

本日の総合教育会議は、設置要綱第5条に基づきまして会議を公開し、第6条に基づきまして議事録も公表されますのでよろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに小坂市長より御挨拶申し上げます。

1 市長、教育長あいさつ

市長 改めまして、皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、またこの昼間の大変お忙しいところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。令和5年度第1回目となりました総合教育会議でございます。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、私のほうから、今日は皆様の御参考になるかと思ひまして、日本経済新聞の中にあつた記事をお持ちしました。1週間か10日ぐらい前の記事でございますけれども、フィナンシャル・タイムズですから、アメリカの記者さんが書かれたものを和訳した記事でございます。ICTを使った、もしくはVRを使った教育の取り組みの事例紹介や、いろいろ面白いところもあるなかで、私のほうから御紹介したいのは、この資料の下の辺のところですよ。

OECDが最近出した報告書の中で、デジタル教育は学校制度の質と公正さと効率を大幅に高められると結論づけたということですね。ただ、お粗末な形で導入してしまうと反対の効果をもたらして、デジタルデバイドを教育の格差に変えてしまう恐れがある。これが現に起きていることを示す証拠が増えていると。

OECDのデータによると、メキシコでは、宿題をするためにパソコンを利用できる15歳の生徒は、貧しい地域の学校では24%しかいない。一方、裕福な地域の学校では87%であつたということで、デジタルが手に入るかどうか、その子供の格差を助長している。このような結果が出てきているということです。

それから、この最後の辺りを読み上げますと、意欲にあふれた教師が安全な学校で実施する教育の代わりは存在しないと。それが一番いいってことですね。これらに加えて、うまく設計された技術プラットフォームを活用していけば理想的であるということ。最後のところ申し上げると、よくも悪くもVR（Virtual Reality）がどれだけ発展しようとも、我々現実から抜け出すことはできない。現実から逃れようとするよりも改善していったほうがはるかに良いというのが、この記者さんの書いていることです。

ITとの付き合い方という意味では、ITが何か万能だというふうには理解しがちなところがあるようではすけれども、決してそうではなくて、あくまでもITを1つの道具として考えるということ。しかし、道具がないとできないという格差があることは、これは間違いで、その部分はきちんと、学校側、施設側のほうで埋めるにしても、それをうまく使っていく先生がいたら、これはすごく良いツールになると。このようなことが、この記事の内容となっております。ぜひ参考にさせていただければと思います。

今日は、議題としましては、南中学校の統合についてということでございます。既に委員会も動き始めたということでございますので、今日はその内容について、皆様に事務局のほうから説明申し上げまして、そして、いろいろな御意見、

御感想があると思いますので、ぜひここは皆様から活発な御意見を賜りたいと思いますし、もうお気づきの点がございましたら、どしどしと御指摘をいただきまして、もしくは、こんなこともやったらいいんじゃないかとか、こんな御提案をいただけたらというふうに思っております。短い時間ではございますが、どうぞ最後までよろしく願いいたします。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、岡田教育長から御挨拶申し上げます。

教育長 皆さん、こんにちは。本日は教育委員会と市長さんとで意見を交換できる、貴重な機会をいただきました。ありがとうございます。

日頃の教育施策につきまして、市長さんからの御理解があり、それから教育委員会への信頼があって進めることができていることに本当に感謝を申し上げる次第でございます。今、市長さんが言われましたITのことにつきましても、恵那市はいち早く環境整備を整えるなど後押ししていただいている中、今ほどのように使うかという段階でございます。まだまだ、私たちはあまりITのことについて詳しくない部分のところも、教育ラボみたいなものをつくったらどうかというような案もいただきながら、積極的に今進めているところでございます。

また、今日、市長さんからのお考えもお伺いしたいですし、教育委員さんのほうからも、ふだん思っていることや、さらによくするために考えてみえることがありましたらお知恵をいただいて、統合中学校がよりよいものになるようにということを考えておりますので、意見が活発に交わされることを期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

2 議題 「恵那南地区統合中学校について」

(1) 準備委員会の進捗について

(2) 恵那南地区統合中学校基本構想（案）について

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、議題に沿って進めさせていただきます。本日は、「恵那南地区統合中学校について」ということで、1つ目に、準備委員会の進捗について報告をさせていただきます。2つ目に、恵那南地区統合中学校基本構想（案）というところで事務局より説明をし、皆様から御意見等をいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは、早速、恵那南地区統合中学校準備委員会の進捗について報告申し上げます。事務局より、よろしく願いいたします。

教育総務課係長

(1) 準備委員会の進捗について、資料に基づいて説明。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございます。今のところで御質問等ございましたら、いかがでしょうか。

西尾委員　いいですか。すみません。

事務局次長兼教育総務課長

西尾委員、お願いします。

西尾委員　それぞれの理事会、専門部会等々の開催ということで、大変御苦勞様でございます。事務局預かりのようなことで、精査して、もう一度、次の部会の際に提示するというようなことが幾つかあったようですけど、それぞれに事務方のほうで業者の方との意見もすり合わせながらやっていくと。ただ、しっかりした案を練っていかなきゃいけないことは分かっていますが、時間が無尽にあるわけでもないということで、早く、そしていい案を出していただくように、改めてお願いをしておきます。

以上です。

教育総務課係長

ありがとうございます。

事務局次長兼教育総務課長

そのほか、よろしかったでしょうか。

教育長　あと、付け足しとしては、保護者にアンケートを取りましたね。

事務局次長兼教育総務課長

はい、取りました。

教育長　ここには記載がないですけれども、恵那南地区の小学校とこども園の保護者に対して、アンケートを取らせていただいております。今、集計等している段階ですけれども、それも付け加えさせていただきます。

事務局次長兼教育総務課長

そのほか、よろしかったでしょうか。

市長　全体のスケジュールみたいなのは、示す場がこの後ありますか。

事務局次長兼教育総務課長

委員の皆様には、毎月定例会やっておりますので、それぞれの進捗状況と、これからのことについても報告をしております。

西尾委員　あと、もう一つ。ここにも出ておりますけれども、土砂災害特別警戒区域、いわゆるレッドゾーンというのが県のほうから示されたということで、事務方のほうから、市内の小・中学校、こども園の近辺の状況はどうかということ、資料を作っていただきました。それを見ると、恵那市、どこへ行っても山間地ですから、全く安全だよというようなところが少ないわけです。

その中でも、順次、恐らく整備をしていってくださるでしょう。していく必要もあるでしょう。ただ、いろんな優先順位を考えていただく必要もあるかと思いますが、教育委員会がそれを考える部署であるかどうかは分かりませんが、教育委員会としての要望も出してもらいながら、できるだけ早く、そして

確実な改修をしていっていただきたいと思います。

以上です。

事務局次長兼教育総務課長

市長さん、お願いします。

市長 今、御指摘いただいた件は、レッドゾーンだけに限らず、例えば通学路の安全性の確保ですとか、それから河川の浸水区域の話も絡んでまいりますので、それぞれ担当の部署はありますけども、特に建設部辺りの部署と教育委員会とはよく連携を取っていただいて、優先順位を含めて事業に取り組みます。例えば、優先順位高いんだけど、めちゃくちゃ費用がかかるとか、市の事業ではなくて、これは国や県にやってもらわないといけないというのもあって、一概に、優先度どおりにはならないかもしれない。しかし、実現可能性の高いところから、なるべく早く片づけてくというか、対応していくようにいたします。よろしくお願ひいたします。

事務局次長兼教育総務課長

そのほかよろしかったでしょうか。

では、次の議題に入りたいと思います。恵那南地区統合中学校基本構想（案）について、皆様から御意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、説明のほうよろしくお願ひいたします。

事務局次長 （２）恵那南地区統合中学校基本構想（案）について、資料に基づいて説明。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。今はパワーポイントの資料で説明させていただいております。細かなことにつきましては、別紙のところ、基本構想というA4冊子をお配りしておりますので、そちらのほうで御確認いただければと思います。

それでは、この基本構想について皆様から御意見等いただきながら、また、教育委員の皆様におかれましては、市のほうへ、こんなこともあったらいいなみたいな、少しお願ひすることなどございましたら御発言いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

村松委員から、よろしくお願ひいたします。

村松委員 はい。基本構想の中で、私がぜひ力を入れていただきたいというのが、常々思っているのは、やはり教育相談の充実というところです。先日、この基本構想のお話の案を提示していただいた中で、教育長さんが市長さんと話されていた中に、人口が減ったからの統合ではなくて、学校の役割を充実させるための統合でもあるんだという意見がすごく印象に残っています。

学校の果たす役割というのは、多くの出会いがあって、その中で選択肢が広がって行って、それがやがて自立する力になって、社会を生き抜く力になっていくという、そういう力を培う場がやっぱり学校が果たす役割につながっていく

のだというように、私自身思っています。やはり、人とつながるとか、たくさんのお会いがあるという、選択肢が少しでも増えるというのは、そんな状況を生徒たちに与えるということは、すごく大切なことだと思っています。

過去、南地区の中学校2校で、相談員をやっていたときにすごく思ったのが、限られた空間の中で苦しんでいる生徒というのは少なからずいます。私が一番寄り添ってほしいと思うのは、不登校になる前の状態の生徒です。毎日、重い足を引きずりながら登校している生徒が少なからずいます。同じ価値観を共有できる友人がいないというのが、一番の理由ですけど、半分諦め、カウントダウンをしながら、重い足を引きずりながら登校している生徒。そんな生徒に、ほんとに寄り添える教育環境を整えてほしいと常々思います。

今、各学校にSCさんを配置していただいているんですけど、5校分のSCさんが1校になったときに行く時間数だったりとか、そういうのも増えてきたり。あと、支援員とか相談員さんも、5校分の今の勤めてみえる方々の中で、何人か配置して、あるいは常駐してもらえたりして。担任の先生だけに重荷にならずに、教育相談が充実できる環境というのは、すごく未来があるというか、希望が持てるんじゃないかなと思います。

そんなことを思いながら、生徒のお会いの場とか、いろんな意味で、部活動でもですし、友達関係ももちろんですけど、いろんな選択肢が広がるような、お会いの場が広がる学校を、ぜひ、そんな学校にしてほしいということを思っています。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。今の意見に対しまして、教育委員会からは発言はありますか。

教育長 現実には様々なお子さんがみえます。広い場所があればいいかということ、そばかりでもなくて、個室みたいなどころも必要かもしれないということも考えています。例えば、クールダウンできる場所とかも含めて、建築には盛り込んでほしいなと思っています。実際に、部会からも、そういう意見がもう出ていますので、無尽蔵にできるわけではないですけども、そんなことも考えながら進めていけるといいなと考えています。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。それでは、続いて後藤委員、御発言ありましたらよろしくお願いたします。

後藤委員 はい、お願いします。ちょっと話は外れるかもしれませんが、先日、恵那東中学校の教育長訪問に行ってきました。恵那東中は大きな学校で、先生たちも教科担任制でやってらっしゃる学校です。すごく授業が楽しかったです。ほんとに5分、10分しか見られませんでしたけど、専門性のある先生が授業を行うと、こんなに楽しいのかということを感じました。これはやっぱり大きな学校ならではの良さだと思います。

行く学校によって生徒たちが受ける授業の質が違うというのは、ちょっと問題かなとは思いますが、統合することによって、新しい学校もきつと教科担任制になると思いますけど、そこで、よりよい学習ができるように、先生の質というのも、とても大切です。

恵那は、なかなか先生が根づかないというか、ほかの地域に行ってしまうというのを聞いていますので、いい先生がぜひ恵那に根づくような、恵那の魅力というの、また学校とは違ったところで高めていただいて、ここに住みたい、先生でもここに住みたいというような何か地域ができると、とてもいいなということをおもっています。

大きな学校で、大きな学校になじめないという子も逆にいると思いますが、その分、支援学級ですとか、いろいろな生徒、いろいろな先生がいるので、多様性が広がるということがとてもあるので、今度、新しい学校も支援学級の充実をお願いしたいです。あと、同じ教科でも少人数に分かれて、少し苦手な子と、できる子と分かれて勉強ができるというような環境も、ぜひ整えていってほしいと思います。先生の確保も、ぜひぜひお願いしたいと思います。

もう一点。先日、私、この令和4年の学校運営協議会の成果と課題、コミュニティ・スクールの冊子を読みました。統合することになっている5つの学校、コミュニティ・スクールが充実していて、子どもたちは地域の宝だという取組をたくさんやってみえます。それを統合することによって、無くなってほしくないというのはすごくあります。そこは、地域の方もとても不安だと思います。子どもたちが遠くの学校に行ってしまうから、密に子どもたちとコミュニケーションが取れなくなるのではないだろうか、地域の活動が衰退してしまわないだろうかという不安があると思います。そこをどうやって解消していったらいいのかという、またこれからの課題だと思います。

例えば、すぐに山岡中学校に行けない遠い地域の人のためにWi-Fi環境を整えた、その地域ごとに整えた場所で、大人たちもちょっと学校の様子を見たりとか、山岡で行われる会議に参加することができるとか、何かそういう環境とかを整えたり、遠く離れている地域の人たちもつながりやすい、子どもは中学校で会えますが、大人たちもつながりやすい環境というのをぜひ整えていただけるといいかなということをおもいました。

いろんな希望を抱えている人、不安を抱えている人、この統合に関して、たくさんいると思いますので、いろんな意見が出る中で、1つでも子どもたちのために、よりよい環境が整えられるように。お金がかかることだと思いますが、ぜひ予算もかけていただいて、よりよい中学校を目指していきたいです。よろしくお願いたします。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。今、後藤委員から2つのことについてお話がありました。1つは、教科担任制のこと。もう一つは、地域の拠点というところのお

話でした。それについて教育委員会事務局から、コメントをしていきたいと思
います。

まず、教科担任制のことについて、先生の配置ということですので、そういっ
たことについて今後どのようになるか、今どんな状態か。少し、副教育長のほ
うからコメントいただければと思います。お願いいたします。

副教育長 加配というのがありまして、定数に対して法で決められている教員の数があ
ります。それに対して、統合にかかって、やはり支援していくということです。
予定としては、当初2名の加配をいただけるという予定をしていますので、8
年度のスタート時点で、支援が必要な場合も含めてスムーズにいくためにとい
うことで、教員の配置に関してははっきり進めていきたいと予定しています。
今、進めようとしている英語でいきますと、5校のALTさんですとか、そう
いったところも、複数配置するような事ですとか。先ほど心配されていた教育
相談についても、支援の方を、今ある教育資源のところを活用して、支援して
いくような方向で補充して頑張ろうと考えております。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。そういうところで、統合に向けても、教員配置のほ
うも教育委員会のほうで考えていくということですので、よろしく願いいた
します。

教育長 少し訂正させていただきますと、統合加配は1人になります。これが2年は配
置できます。また、例えば主幹教諭というのが、今、上矢作地区に、主におい
ているんですけど、そういう人たちを配置するとか。

それから、先ほど言われたのは、少人数というのも、実際には、今の岩邑、明
智はまだ大丈夫ですけど、ほかの学校でいうと、そもそもが少人数なので、少
人数に対する加配というのはいただけないんですね。それが3クラス、4クラ
スになれば、少人数学習をする。要するに、習熟度というんですけれども、で
やれるようなという加配がいただける、そういう規模にはなると思います。そ
れについては、例えば、数学1、英語1とかというふうに、そのときの状況に
よりますけれども、です。ので、複数名加配がいただけるのではないかなと。

少なくとも、統合に係っては1人確実にいただけるんですが、それ以外の方も
充実させたいと思っています。先ほど言われた、市の会計年度の職員の方もで
きるだけ増やせるようなこと。それから、ALTも。この構想の中に少し書い
てありますけど、国語力や英語力もつけながら、発信力も子ども達にはつけた
いと思っています。ということを見ると、ALTも常駐または常駐に近い形
で置けないかということは今考えております。職員、できる限り手厚くなるよ
うにということ考えていますので、よろしく願いします。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。2つ目に、地域、コミュニティ・スクールのお話が
ありましたので、この基本構想の中で、地域との連携のところ、地域の拠点

施設のお話が事務局長よりありましたけれども、補足を少しお願いいたします。

事務局長 先ほども少し説明しましたが、まさに5校を1校にする大きな目的の1つが、この地域との連携・協働です。この表にもありますように、地域に支えられながら共に成長していく学校・地域であってほしいということです。これから先を考えたとき、人口減少がどんどん進む中で、もはやこれまでの地域だけでは、地域の文化、伝統文化等の維持もだんだん困難になっていくというような状況になっていくと思います。そんな中で、5つを1つにするということで、子供たちの中で、私のふるさとは生まれた地域、場所だけではなく、恵那南地域全体だよという意識を中学校の段階から持つようになっていけば、それが自然と、その子の、その生徒の心の中に残り、地域を存続させていかなければというような気持ちが自然と出てくるのではないかと考えております。

なので、この地域、コミュニティ・スクールとの関係につきましては、さらに、より強力に連携・協働を図っていく必要があるということは考えています。具体的に、大切にするとこにも少し書かせていただきました。こういった意識を持つということが非常に大事ではないかと考えております。

以上です。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。コミュニティ・スクール、そういった地域のことも大切にしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、樋田委員、お願いします。

樋田委員 どうもありがとうございました。項目的にお話をされたので、具体的なところがつかみにくいところがありましたが、その1つに、交流事業がありました。交流事業というのは、一体どういうことを指しているのか。これから具体的にになると思いますが、今、後藤委員さん言われた、地域での文化活動、これを、どのように維持していくのか。

先日、串原へ行ったときに、中山太鼓やっています。土曜日に少し学校へ訪問したときに、あした、郡上で披露するということでした。18人の生徒が、郡上行って、たたくと。中山太鼓はずっと卒業式のときに、伝統的なこととして、修了証を渡している。それで、統合したときに、そういう、岩村には岩村の伝統的な文化があるし、それから明智も明智の殿様行列みたいな行事がありますね。そうした地域と地域にある文化活動をどうつなげていくのかを、具体的にしないと、地域とますます離れていくようになると、離れていけないようにしないと。いい例が、恵那北中学校が統合して、飯地、笠置、中野方とで、生徒が一緒になったときに、飯地の子は中野方の文化活動に応援に行くと。それから、反対に笠置の子は飯地のほうへ行って歌舞伎をやったりとか、そういった行事があります。助け合ってやっていると。今度は恵南が統合されたときに、そういった行事を、南の統合した生徒が、例えば串原へ太鼓たたきに行くとか、あるいは岩村の行事、明智の行事へ行くとか、そういったところを上手に話し

ないと、よく言われる「地域がなくなる」ということになる。地域がなくなるわけではないけれども、そういうこと心配しますね。だから、ほんとに具体的に交流事業をどう進めていくのかを、専門部会で進めていくことは大事じゃないかな。

それから、もう一つ気になったのは、スクールバスの件で、スクールバスで、遠い子いて、学校まで来るのに1時間以上かかるとか、1時間半かかる話もありますね。実際に北中でも八百津近辺から河合まで通ってくると1時間半ぐらいかかる。けども、そこの保護者も生徒も喜んで通つとる。だから、そう心配することないかもしれませんが、1時間の通学のバスの中で、タブレットは使えますか。今の状況は。

事務局次長兼教育総務課長

今のところはタブレット使えるように整備しようと思っております。

樋田委員 そうすると1時間、勉強ができる。よく列車の中見ても、スマホばっかり見て、動画見たりしている。バスの中で、会話もできるし、そういったことにも使えて利点になる。だからマイナス面が反対に捉えれば、それはプラスになっていくので、そういうふうな発想の転換みたいに、そういうことも考えた具体的な事も作っていく必要があると思いました。

しかし年数がない。あと3年で、もう半年過ぎています。だから、あまりゆっくりにしてはもらえない。ゆっくりにできないけれど、慌てるとよいふうにはならない。だから、ちゃんと緻密に、ほんとに理解されていきながら、子供にも、親にも、地域にも、ほんとに上手に進めていくと。で、いいことばかり言わず、マイナスも確かにあります。ありますが、それも補えていけるような発信の仕方、それを専門部会、理事会の方たちをお願いしたいなと思います。大変ですけども、よろしくをお願いします。

以上です。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。樋田委員さんが言われました、交流事業について部会のところで今話をしていくところですけども、教育委員会としても、その辺はしっかりやっていくように、進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

あと、スクールバスですけども、これは環境部会のほうで、今、議論を進め始めております。確かに中では1時間以上かかるといううわさも流れていますけれども、実際どのくらい時間がかかるか、そういったことも含め、実際に車を走らせて、専門の方に見てもらおうと思っております。台数は増やすにしても、なるべく短い時間で学校に通えるようなシステムが構築できたらいいかなと考えておりますので、お願いします。

もう一つ、Wi-Fiということもありましたけれども、やはり環境整備として、教育委員会の中でも、バスの中のWi-Fiについては話が出ております。

そういうことについても、最終的には部会の中で検討していただき、教育委員会の中で決定し、つけるのか、つけないか、そういったことも考えていく必要があると思います。樋田委員が言われたように、バスの中の学習環境、そういったものも少し考えていければと思っていますので、部会のほうにも投げかけておきますので、よろしくお願いたします。

そのほか、補足はなくてよろしいでしょうか。それでは、西尾委員、お願いたします。

西尾委員 令和5年の4月に、愛知県の南知多町、知多半島の先端ですけど、あそこの4つの中学校が1つに統合されまして開校したということだそうです。理由は、生徒数の激減ということで、4つの中学校として、もう学習環境がこれ以上よくなれないというような判断をされたんでしょう。今年の4月から統合された。そんな中、今度新たに大きな学校に通う女子生徒の言葉というのを聞きました。生まれて初めてのクラス替えができる。わくわくしていますという発言でした。この子供たちがわくわくするような学校。もちろんクラス替えもその1つでしょうけれども、子供たちがわくわくするような学校づくりというものが、この基本構想の案には、そのわくわくの言葉は出てきませんけれども、そういったものが、ここかしこに表われるような学校になるといいなということをお切に希望します。

もう一つ、環境について、部会のほうでもいろいろ検討してくださっていますが、せっかく5つの地区から集まってくるわけですから、お国自慢と言うと変ですけど、それぞれの地区の自慢ができるようなスペースがあってもいいのかなということをお思います。

私、南地区山岡町に在住しております、以前こんなことがありました。ある団体に所属しております、岩村の夏祭りに、明智の方々がお手伝いに行きました。そしたら、岩村のいわゆる長老と言われる方から「何、明智からお祭りの手伝いに来てくれた。それはすまなんだのう」という発言がありました。これはうわさですけど、明智と岩村というのは400年の犬猿の仲というような話も以前聞いたことがあります。それが事実であろうが偽りであろうが、とにかく、岩村の長老さんからそういった言葉をいただきました。年の大きい方たちというのは、表現は悪いですけども、地域に対する思い入れというものが非常に強い。我々の年代になってくると、もう所属していた団体は、恵南地域で1つの団体でやっておりますので、そういったエゴと言われるようなものが薄いと思います。

市長さんを前にして何ですけども、恵那市が合併して16年、17年になって、本当の意味で恵那市が1つになるというのは、恵那市になってから生まれた子供が大人になって、いろいろな町の中心的な立場になってくる。その頃になって、やっと初めて恵那市が1つになったのだというふうには言えるのではないかなというようなことを、私思っています。それはなぜかというと、南地区、恵南

地区でのいろんな活動を通して考えているところです。

今後、南地区で中学校が統合され、先ほどからも話が出ておりますけども、それぞれの5つの地域の地域活動というものが、エリアが大きくなるというのはもう間違いないわけですので、それを大いに利用というか、使って、そういった隔たり、こだわりというか、そういったものがなくなる大きな力になっていくのだろうと思います。わくわくするような学校をぜひつくっていただきたいと思います。

以上です。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。今の発言の中で1つありました、環境整備のところ、要は地域の自慢ができる部屋みたいな、そういうことがありましたので。環境部会の事務局である丸山次長に少しお話いただけますでしょうか。お願いします。

事務局次長兼学校教育課長

環境部会を担当させていただいております。3回目の会議の中で、委員の皆様から、これだけの地域の特色あった活動を、やっぱり新しい学校でもうまくやり続けたい。それを、何とか学校の中で分かるような、飾りとは言わないですけど、活動ができるスペース、これがやっぱり必要ですよという意見は多く聞かれております。そういうことも考えながらも、部会の中で、じゃあそれを具体化しようというなら、教室の中にどんなスペースをつくらいいのかなということに、今、皆さん、意見を出し合っていていただいております。ぜひそういう意見が実現できるような形で進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。あと、わくわくするような学校ということから、教育長さんご意見はありますか。

教育長

難しいなと思うのは、何にわくわくするかということも人によって違うんですけども、1つ考えているのは、令和8年度に学校ができて、子供たちも先生も集まってきます。そこから、今度その人たちが、どんな学校にしたいか、こんな学校したいよということも、そういう動きもあると思うんですね、実際、こんな学校をつくっていききたいと。

今、私たちができることは、1つは、そういう人たちが、いろんな可能性をこれから追求していくために、できる限りの環境を整えてあげる、考え得る限りの。そんな学校をつくっていきけるといいのかなと。

わくわくするのは、やっぱり子どもたちです。先生たちにもわくわくしてほしいし、地域の方にもって思うと、これからいろんな意見をお伺いする中で、1つでも可能であれば。または、みんなと一緒にいっていきたくてということあると思うんですね、わくわく。私たちだけが作るものではないので、そのことも

含めてやっていけるといいのかなということを思っています。

それから、さっき言われた、5つの地域の自慢ができるというように言うと、最近、中津川の福岡小学校を見に行ってきました。福岡小学校は、何気ないというか、オープンスペースみたいなところに、まず大きな校章がどんと真ん中であって、いろんな本とか、そういう物が置けるようなことになって、もう子どもたちが、いつでも目にできる。ひょっとしたら地域の方も。そんな示し方もできるでしょうし。ひょっとしたら、写真や、パネルが置けるようになって。それは、これからなんですけれども、私たちもそういうところを作りたいということは考えているところですので、ぜひ5地域のよさを生かしながらも、新しいものも生み出していけるような、そんな学校にしたいという思いがあります。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。それぞれ委員の皆様から意見いただきましたけれども、そのほか、どのようなことでもよろしいですので、少しお話があったらよろしく願いいたします。

村松委員 すみません、いいですか。

事務局次長兼教育総務課長

はい。

村松委員 それぞれの伝統文化をといてところで、串原の10人ぐらいの生徒たちが、ふるさと活動で自分たちの太鼓を広げたいということで、自分たちでチラシを配って、企画をして、ささゆりで第1回目披露しました。今でも多分続いていると思いますが、市長さんも来ていただきました。そのときに、明智の中学校の生徒も何人か来てくれていました。明智中学校が、課外活動で串原の学校に寄って太鼓の交流をしたときに「あっ、明智太鼓と似とる」と言っていて、「たたきに行きたい」って、言っていました。それが串原の生徒たちが企画してくれた、ささゆりの太鼓披露で実現できたりしました。

どうして似ているのかというと、どこかでつながりがあるかもしれないね、順番に形を変えて伝わってきたのかもしれないね、という話をしていました。すごく興味を持った生徒たちが実際にいて、また、そういう、たたく機会があればぜひ行きたい、たたきたいと言ってみえて、興味のあることはとことん、できる限り、時間が許す限りさせてあげたいというか。

あと、地歌舞伎とかもありますけど、やはり指導されてみえる方が結構、御高齢で、もうこれは串原のものだから、明智のものだからとか、もうここ在住の人でなければなんて言う方は多分いないとっていて、すごくウエルカムな感じだと思うので、そこを上手にというか、希望すれば参加できるよという形にしていきたいと思います。

興味がある子は、ほかの地域でも似ているものに対して興味がある。ただ単に歌舞伎がやってみたいという生徒もいるので、これから、そういう伝統文化の

ことを考えていく部会の中で、何とか良い形に進めていっていただきたいなと思います。誰もが参加できるような、そういう伝統文化を増やしてほしいなということを願います。お願いします。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。貴重な御意見ありがとうございました。この地域の文化、そういったことにつきましては、教育部会のほうで、これからどのようにしていくかということを考えていくと思います。その部会ばかりに任せるのではなくて、教育委員会としても一緒になって考えていきたいと思っています。貴重な御意見をありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。

後藤委員 先日、明智中学校を卒業された方とお話する機会がありまして、すごく明智中、みんな仲よくて、すごい地域のこと大好きなんですって。だけど、やっぱり寂しかったと。ずっと保育園からメンバーが変わらないことが。もっと早くほかの地域の人たちとも一緒に勉強してみたかった、いろいろ交流してみたかったという話をされました。それをちょっとお伝えしたくて。

今、実際にそういう子たちもいるかもしれない。ちょっと窮屈だなんて感じている子もいるかもしれない。なので、先延ばしすることなく、先ほどから言っているように、迅速に、かつ丁寧に進めていっていただきたいなと思うのと同時に、今の子供たち、今、小・中学校に通っている子供たちも、交流したいという気持ちがあるということを忘れずに、統合したときにスムーズになるというメリットもありますし、今の子供たちがいろんな多様性の目を養うという意味でも、ICTを使ったり、他校を訪問したりということで交流を続けていっていただきたいなということを思います。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。こちらも貴重な御意見だと思います。南のほうは1学年というところで、クラス替えもなく、同じメンバーでこども園から中学校まで卒業するということがよくある話でございますので、そういった御意見もすごく大切だと感じます。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。皆さんも御意見ないようですので、最後に教育委員さんの意見を伺って、市長さんのほうからご発言をよろしくお願いいいたします。

市長 ほんとに様々な御意見いただきまして、ありがとうございました。特に今日いただいた御意見の中で、私の耳にというか、頭に残ったのは、1つは、やっぱり子供たちの多様性みたいなのをきちんと大切にしてほしいと、こういう御意見が1つと。それから、もう一つは、地域の文化とか伝統とか、残されたものを、これどうやってこれらも残していくのかということのも非常に大きなテーマだというふうに感じたところでございます。

僕の個人的な意見、まず、個人的にというか、僕の状況だけ申し上げますと、

例えば、僕は東野の生まれですけど、東野小学校の子供というのは、東中学校に進学というか、上がるのです。そうすると、僕らは、大体、二十五、六人の子供なので、男の子と女の子が、大体、十二、三人に分かれちゃって、十二、三人が4クラスぐらいに分かれちゃうので、各クラスに2人か3人ぐらいいて、東中の中に分かれていくと、全く心細いわけですが。で、数名の子たちが非常に大きなグループの中に、ほんとに入れられるんですけど。ただ、これ、中学で経験したからよかったかなというのはちょっと思っていて、高校まで行ってから経験すると、なかなか心の持ち方もまた変わってくるのだらうなというのを思いながら、僕は今のお話を聞かせていただきました。

それから、もう一つ、参考になるかどうか分かりませんが。この間、僕、ポーランドに行ってきました。で、ポーランドのいろいろお話聞くと、これすごく大きな話ですけど、ポーランドって130年ぐらい国がなかったんですね、占領されていたので。ドイツとかロシアに占領されていたということです。国がなかったにもかかわらず、ポーランド語という言葉が残っています。大抵、国って、戦争なんかで占領すると、占領した先を自分とこの国の言葉に置き換えて教育をし始めるのですけど。にもかかわらず、ポーランドは130年間ポーランド語を守ったというのが1つ。

それから、初めて会った人とか、初対面の人に対しても、ポーランドの人たちは、私たちの国はこういうことがあって、こういう歴史があって、こういう中を生き延びて今があるということをちゃんと話してくれます。それは、教育が、特にあの辺り、いろんな歴史的な背景があることを、国としてきちっと教育を、歴史として教えていて、それが徹底されているのだなということを常々思ってきています。

何が言いたいかという、先ほどの地域の歴史だとか文化みたいなものをどうやって伝えていくのかというのは、これは子供に教えることも大事だし、学校の話でもあるんですけど、他方では地域の話でもあるんですね。地域の皆さん含めて、仕組みをちゃんとつくって、これを徹底的に守っていくんだと。伝統、中山太鼓の話が出ましたけど、中山太鼓は残すんだと。そのために地域としてはあらゆる手を尽くしてやるというのが必要ですし、行政は、市や学校は、それをきちんと受け止めて、これはちゃんとやりましょうと言うべきであろうし、それは現場の中でも落とし込めて、仕組みとして、こういうことを残していくためにはどういうものが必要なんだ。例えば、施設が必要なのか、場所が必要なのか、時間が必要なのか。そういうことを含めて決めていくし、それを姿勢として示すことが必要だろうなというふうに思っています。なので、先ほど教育次長のほうからお話申し上げたように、これを設計するなり、これから決めていく中で、きちんと位置づけをしていくということが大事だろうと思っています。

それから、もう一つ、皆さんの意見を聞いていて非常に大事だなと思ったのは、

皆様が前向きな話をいただいてありがたいんですけど、恐らく、これから新しい学校をつくるに当たって、傍観者ではなくて、当事者として、ぜひ関わっていただきたい。これは教育委員の皆様だけではなくて、地域の皆様、それから保護者の皆様を含めて、教育委員会は、これから計画をつくり、これを実行していくに当たっては、多くの方の意見をきちんと聞いて、それを受け止めて、それを形にすると。で、各自の言った意見をちゃんと受け止めてくれたということにしたいと思いますし、1つでも、ここの部分は自分たちの手でやろうという場所をつくって、当事者としてこの学校づくりに関わっていただけることが、何より学校への愛着を育む第一歩だと思います。

そうした大人の姿勢を見せることが、子供にとって何より大事だと思いますし、先ほど樋田委員がおっしゃったように、その子供たちが大きくなったとき、もしくは大人になったときに、この地域をどうやって守っていく、もしくはこの地域のために俺たちは頑張っていくんだという意識をつくるためにも、大人たちが、今、頑張る時かなと思いましたので、そのことを肝に銘じて進めてまいりたいと思います。どうもありがとうございました。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。今、市長さんからもお言葉いただきました。

事務局としても、教育委員の皆様にもこの統合にご協力をいただき進めていきたいと思います。

それでは、これにて、第1回恵那市総合教育会議を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。

閉会（午後2時37分）